『現代女性とキャリア』第 17 号によせて

現代女性キャリア研究所所長
永井　暁子

昨年 4 月 1 日に「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」が施行され、女性活躍推進法の期限が 10 年延長されるなど、従来の法律の枠組みではできなかった支援や、女性特有の健康課題への取り組みや職場でのハラスメントなどの対策強化など政策的な進捗がみられる一方で、「ジェンダー・ウォー」という状況が生じるなど、女性を取り巻く環境は厳しい様相を呈しています。

そのような中で、特集では、昨年 12 月に開催したシンポジウム「非婚・少子社会への視座―若者の意識・家族政策の変化と少子化の現状―」での 3 名の演者の報告とその後のパネルディスカッションを取り上げました。少子化対策に限定せず、多角的な観点から少子化について議論していただいた結果、その生活の質や価値の重要性が共通して見出されました。

今号は、寄稿論文と投稿論文を掲載しています。本学出身であり、現在シドニー大学で教鞭をとっておられる米澤陽子先生に「沈黙も声も：メディアが映し出す政治とジェンダーの力学」を寄稿していただきました。一昨年にご報告いただいた研究会は大変盛況で、ぜひ論文を読みたいとの希望に応え依頼したところ、ご快諾いただき掲載に至っています。投稿論文は、女性が継続就業する上で「相談」がいかに機能しているかを明らかにした興味深い論文です。学内外から女性の生き方に関連する多様な領域の論文が寄せられており、このような多様さがこの機関誌の特徴と言えましょう。

書評では、女性労働研究の第一人者である永瀬伸子先生の重厚な 1 冊を、水落正明先生に取り上げていただくことができました。水落先生も労働に関する多くの論文を書かれており、評者が見出したポイントを中心に読んでみるのも大変興味深いものです。図書紹介では社会福祉と労働環境に関する 2 冊の本を取り上げています。両者ともに「生きること」に必要な社会システムの再考という点で共通した 2 冊です。

学生へのメッセージのコーナーである「女性とキャリアの雑学」では、司法書士の齋藤知美氏に女性のライフコースと関連付けて司法書士の仕事のやりがいについてご執筆いただきました。女性のキャリアパターンの中でしばしば見いだされるキャリアチェンジの一つの在り方が生き生きと描かれています。

また、本学の教員・学術研究員、またゆかりのある研究者の方にご自身の研究をご紹介いただくコーナー「研究紹介」を設け、今号では 5 名の方にご執筆いただきました。次号以降も、本学における女性とキャリアに貢献しうる多くの人材・研究を紹介してまいります。

毎号巻末には、本学内でさまざまに実施されている女性のキャリア支援や女性についての研究・教育の総合的な発信の場となるよう、他部署にあっては分かりにくい活動内容を「動向」としてまとめています。今後も学内外のキャリア支援についての動向についてお知らせし、大学内の部署と研究所が連携して本学学生のみならず、社会に貢献していきたいと思います。